

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立関高等学校 事業実施報告書②

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	関高等学校 1年生 7クラス（計279名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ コミュニケーション英語Ⅰ ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	女子柔道の母と呼ばれる米国人女性の生涯について、聞くこと、読むことによって理解し、スポーツおよび男女差別について学ぶ。女性であることを理由に男性と同じように柔道をすることを拒まれた女性が地道に活動を続けた結果、女子柔道はオリンピック競技の一つになったという実話から、実現困難な夢をかなえようとする際にどのような姿勢・行動が求められるのかを考える。
5 取組内容	● スポーツに対する情熱、夢の実現、男女差別について考える題材。 ● 柔道に魅せられた米国人女性柔道家 Rena Kanokogi が女子柔道の地位向上のために努力し、女子柔道をオリンピック競技にしたという実話であり、この題材で考えさせたことは次の3点である。 （1）困難な日常生活の中で、簡単にあきらめてしまっていることはないか。 （2）スポーツ界における gender equality の現状と問題点。 （3）スポーツの世界に限らず、Social Justice を追い求めるために、私達には何ができるか。 ● 教科書の読み取りに加えて、いくつかの short film などを生徒に提示することで、authentic な英語に触れる機会を与え、様々なものの見方ができることを提示できた。
6 主な成果	● 今ではオリンピックの競技として当たり前認知されている女子柔道が、ここに至るまでには、多くの人々の努力と長い時間がかかっていることを知ることで、よりオリンピックに興味・関心をもつことができた。 ● 女子柔道と五輪の歴史的変遷だけでなく、スポーツにおけるジェンダーやマイノリティの問題についても考えることができた。

	● 固定概念や慣習の中に差別が含まれており、何事においても人の気持ちや立場に立って考えることの重要性を学ぶことができた。それに関連して、五輪憲章には五輪組織がいかなる形の差別とも相入れないことが書かれてあり、五輪が崇高な理想を目指す大会であることを理解することができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	● 日本におけるオリンピック競技の変遷や、あり方だけでなく、スポーツ界に見られる男女差別、人種差別などの現状について、生徒たちが学ぶことができた。 ● ワークシート等の中に Rena Kanokogi の場面ごとの心情を考えさせる問を増やし、差別される側の気持ちに迫らせた。 ● 授業の導入の中で女子柔道だけでなく男子シンクロや女子野球などにも触れ、スポーツにおけるジェンダーやマイノリティについて考えさせた。
8主な課題等	● 学んだことについて、自分を見つめなおし、自己表現をさせるという活動が十分にとれなかった。 ● アンケートなどをもって、学びの前・後の状態（生徒の意識調査）を把握することができなかった。 ● 生徒にとっては馴染のない選手の話であり、なかなか東京五輪への意識づけまで持っていけなかった。むしろ男女差別や偏見といった情緒的な部分へのアプローチにはなった。
9来年度以降 の実施予定	来年度も同じ教材を使って、同時期に1年生の生徒が学習する予定である。